

「令和元年度ふくしま『学びのスタンダード』推進事業」推進地域の取組

パイロット校名	小野町立小野中学校, 小野新町小学校
推進協力校名	小野町立飯豊小学校, 浮金小学校, 夏井第一小学校

未来を担う子どもたちに確かな学力を身につけさせるために

～「授業スタンダード」を活用した授業改善・指導力向上への取組～

1 推進地域における「授業スタンダード」の活用について

(1) 研究計画及び指導案への「授業スタンダード」を基にした視点の位置付けと実践

- ① 教材の価値、児童の実態、単元の目標を考えた単元構想
- ② 導入・展開1・展開2・終末の4段階設定 (以下視点設定の例)

展開2【ペアや学級全体での話し合い活動を通して、自分の思いや考えを広げ、深められるようにする】

- ・ 考えの続きを発表させたり、同じ説明をもう一度させたりするなどして、児童の考えを引き出し、つなげることができるようにコーディネートしていく。
- ・ 吹き出しなどを使って、児童が発言した思考過程を可視化できるように板書の工夫をする。

③ 教師のコーディネート

- 「問い返し」や思考を「共有させるための教師の働きかけ」を意識した発問や意図的指名を行うことで「深い学び」を目指した。

④ 「授業スタンダード」チェックシートの活用

- 毎月末の評価により、成果や課題を明確にし、翌月の目標設定と授業改善を図った。

(2) 互見授業への効果的な活用

- ① 授業者は、「授業スタンダード」を基にして「互見授業参観シート」に参観のポイントを記入し、参観者はそのポイントを参観し、付箋を使って感想を交流した。
- ② 全教員の研究授業実践に加え、「授業名人」と称する同僚の熟達した授業を複数回実施することで、多くの教師が参観できるようにし、授業の質的改善に努めた。

2 パイロット校の取組内容

(1) 数学科における「タテ持ち」(全学年実施)の取組について

○ 令和元年度：数学科「タテ持ち<※2>」+「習熟度別指導<※3>」

・ 時間割と担当者割り振り例

※週時数：1学年(4時間)、2学年(3時間)、3学年(4時間)

	月	火	水	木	金		I	II	III
1	1年	3年	2年	1年	2年	1学年(4h)	B	C	A
2	2年	1年	3年	3年		2学年(3h)	C	A	B
3				教科	教科	3学年(4h)	A	B	D
4									
5	3年		教科		1年				
6	総合	総合		道徳	学活				

★ 推進教師：A<全学年> 担当教師：B<全学年>・C<1・2学年>・D<3学年>

★ 全学年：I(発展)・II(基本)・III(補充)の3編成

- 学力調査や事前テスト等から単元ごとにクラス編成を行い、担当教員も変更した。
- 自分の習熟度に合わせた学習が最も力を伸ばすことを生徒と共有した。
- 週1回の学年別教科部会を時間割に位置付け、教師が学び合う時間を確保した。

(2) 「小野中ハートフルプログラム」による授業の基盤づくり

- 箱根町「ハートフルプログラム」を参考に、グループエンカウンターなどを通じて、自己肯定感や自己有用感を育むとともに、望ましい人間関係づくりに努めた。(全学級実践)

(3) 小学校教科担任制の取組

① 4学年における教科担任制

	4年1組	4年2組
T1	推進教師	
T2	1組担任	2組担任

② 5学年における教科担任制

	5年1組	5年2組
社会科	1組担任	
理科	2組担任	

6 学年における教科担任制

	6年1組	6年2組
社会科 理科 音楽科	1組担任	
算数科 体育科	2組担任	

- 年度初めに、得意分野・専門分野を生かした指導ができるよう、該当学年で誰がどの教科を担当するか決める。
- 時数調整しやすい教科同士で行い、時間割が裏表になるよう時間割を作成する。
- 時数が合わない部分は、他教科の小単元を指導するなどして調整を行う。
- 具体的には左のような指導体制をとった。

(4) 家庭学習スタンダードの取組

① 生活カードによる R-PDCA サイクルの確立

- 生活の様子(宿題、自主学習、学習時間、早寝早起き)の毎日振り返り(3学年以上)
- 朝の時間(月曜日)を活用した「前週の反省と今週の目標設定」

② 「家庭での学習・生活チェックシート」による自己マネジメント力の向上

- 「家庭での学習・生活チェックシート」のうち、課題となる15項目に絞り自校化
- チェックシートの結果を基に「家庭学習チャレンジ週間」の目標設定と1週間の実践
(※保護者等への取組みに対するコメント依頼)

家庭での学習・生活チェックシート

第2回(7月)6年

このシートは、自分の家庭学習をよりよくするために、家庭での学習や生活の様子を振り返るものです。それぞれの項目の1～5の数字のあてはまりは、一つ一つ心をつけてください。学校の成績は正確な目安から、自分の学習を振り返ります。

(4)としてあるものは、多いほどはまる。2:あまりあてはまる(良い) 1:まったくあてはまる(ない)

1 学習習慣
①家の人に合わせなくても、自分から進んで家庭学習をしている。 4 ④-2-1
②テレビやゲーム、スマホなどをまわりにはがす。集中できる場所で学習をしている。 4 ④-2-1
③宿題を必ずやり、提出日におろし出す。 4 ④-2-1

2 生活習慣
①毎日は早起きをし、すいみん時間をしっかりととっている。 4 ④-2-1
②1日にテレビやゲーム、スマホをする時間を決め、守ることができる。 4 ④-3-2-1
③お風呂に入らないこと(洗濯や手洗いなど)をまよってから自由な時間にしていく。 4 ④-2-1

3 学習時間
①決まった時間に学習を始めている。 4 ④-2-1
②決めた学習時間の前は、机に向かって集中して学習をしている。 4 ④-2-1
③学習の10分前以上の時間学習している。 4 ④-2-1

4 学習内容
①苦手な教科も学習している。 4 ④-2-1
②同じ学習ばかりでなく、何のためにその学習をするのか、あてをもちて学習している。 4 ④-2-1
③授業の予習や復習をしっかりと、テストやドリルなどのまらぎ直しをしっかりとっている。 4 ④-2-1

5 学習方法
①自主学習に積極的に取り組んでいる。 4 ④-2-1
②計画を立てて学習に取り組んでいる。 4 ④-2-1
③分からないことは本などで調べたり、聞いて学習している。 4 ④-2-1

1回目 9点 2回目 9点

【家庭での学習生活チェックシート】

家庭学習チャレンジ週間 7月8日(月)～7月15日(日)

(6)学年 名前()

家庭での学習・生活チェックシートの結果から、1週間がんばりたい目標を3つまで書きましょう。(前「家の人に合わせなくても自分から進んで学習をする」など)

計画表

目標	7月8日(月)	7月9日(火)	7月10日(水)	7月11日(木)	7月12日(金)	7月13日(土)	7月14日(日)	7月15日(日)
1日1時間以上、スマホを長時間使わない	○	○	○	○	○	○	○	○
決まった時刻に学習を始める	△	×	○	×	×	△	×	○
分からないことは本で調べたり、聞いて学習する	○	○	○	○	○	○	○	○

1週間をふりかえって

決まった時刻に学習を始める
1日1時間以上、スマホを長時間使わない
を法的直しから始めてみたい
べいいます。

おうちの人から

決まった時刻に学習を始める、出来たので早く
反省し見直すと、出来たのは良かったけど、
勉強の習慣は、おき出来ていました。

【家庭学習チャレンジ週間】

(5) 推進教師の役割と具体的な取組

- ① 「研修だより」や「家庭学習だより」を積極的に発行するとともに、授業改善にかかわる様子や管理職の総括などを掲載し、教員の意識改革と意欲の向上を図った。
- ② 先進校視察(福井県ラウンドテーブル参加等)により、タテ持ち授業の実態を学んだ。
- ③ 授業づくりや互見授業の推進に努めるとともに、自らも授業実践した。(算数科 T1・T2)
- ④ 研修会・公開授業の伝達については、自校の課題解決につながる内容等を工夫した。

3 推進協力校の取組内容

(1) 飯豊小学校の取組について

① 活用計画

- 児童の「学ぶ意欲を育てる」ことをねらいとした「わかる・できる授業づくり」に向けた授業改善と指導力の向上
- 児童が主体的に問いに向き合う場、児童の考えを大切にしたい学びの場の設定

② 活用の実際 (第4学年 算数科 「広さを調べよう」の実践)

- 児童が主体的に問いに向き合う場の設定
 - ・既習事項や学習内容の明確化を図り、見通しを持って自力解決ができるようにした。
- つぶやきや児童の考えを大切にしたい学びの場の設定
 - ・考えを比べながら聞く話し合いの継続により、互いに学び合う姿勢を高めた。
- 「わかる」から「できる」への学びの連鎖の工夫



・毎時の適用問題等による達成感が、次の学習の活用につながるような単元構成や自己評価を工夫した。

(2) 浮金小学校の取組について

① 活用計画

- 「授業スタンダード」の展開部において、「追究・解決への手がかりを見つけさせる」「子どもの考えを基にした話し合いのコーディネートを工夫する」の2視点を重点事項として授業改善を目指す。



② 活用の実際 (第6学年 社会科 「明治の国づくりを進めた人々」)

- 資料提示の工夫
 - ・ 江戸時代と明治時代の様子絵の提示により、主体的に疑問を引き出すことができた。
 - ・ 3つの資料の段階的な提示により、黒船以外の民衆や武士の様子にも気づくなど、自問自答が考えの広まり、深まりにつながった。

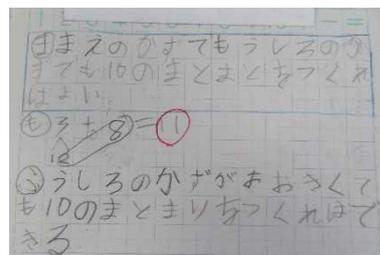
(3) 夏井第一小学校の取組について

① 活用計画

- 教科担任制の導入によって複式学級 (2・3年、4・5年) を解消し、学力向上に努める。
- 現職教育では、「授業スタンダード」をもとに「学び合いにおける教師のコーディネートの工夫」などについて共通理解を図って授業研究会に臨み、授業改善に生かす。

② 活用の実際

- 教科担任制の取組は、全教職員で全校生の指導にあたる態勢ができ、学力向上だけでなく、生徒指導の面でも役に立った。なお、時間割作成と変更時の対応が難しかった。
- 発問や働きかけを意識したコーディネートの話し合いを活性化させ、より深く考えさせることにつながった。また、様々な振り返りの工夫が学習の確かな定着につながった。



【振り返り ノートへの明記】

4 3年間の取組から見えた成果と課題

(1) 成果

- 「授業スタンダード」を基盤とした授業づくりの推進は、教師の意識改革につながった。
- 「授業スタンダードチェックシート」を活用して定期的な授業の振り返りを行ったことで、改善の視点が明確となり、教師一人一人が課題意識をもって、授業改善につなげることができた。
- 小学校教科担任制は、得意分野や専門性を生かした指導、教材研究の時間増などによって、より質の高い授業の実施につながった。さらに、複数教員での児童把握は、多様な視点から児童の良さを認めるといふ生徒指導上の成果に結びついた。
- 「タテ持ち・習熟度別学習」は、教材の系統性の把握度を高め、成績も向上した。また、全職員で全生徒の指導にあたるという連携強化につながり、生徒指導上も効果があった。
- 「研修だより」や「家庭学習だより」の定期的な発行によって、教職員の共通理解が図られたとともに、保護者が児童のよさを見つけ出そうとする意識改革にもつながった。
- 「家庭での学習・生活チェックシート」などの取組によって、自らの家庭学習の見直しと改善を図ろうとする児童生徒が多く見られるようになった。

(2) 課題

- 小学校教科担任制の実施は、時数調整と時間割作成の負担軽減を図る工夫が必要である。
- タテ持ちは、単元 (領域) ごとに担当するため、毎時間・単元の着実な評価が求められる。
- 互見授業参観の時間確保の工夫が求められる。
- 家庭状況に応じた学習支援を強化し、家庭学習習慣の格差解消に努める必要がある。
- 授業スタンダード活用等によって課題となった「必要感のある課題設定や話し合い」、「構造的な板書の工夫」などをふまえ、更なる授業改善に努めていきたい。
- 自信をもって考えを発表できるように、自己肯定感を育む指導を継続していきたい。